

『JVA 2016 年年間統計調査結果』について

当協会は、3月14日(火)午後1時30分から、協会会議室において『JVA 2016 年年間統計調査結果』についての記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2016年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本調査の結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.83』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課倉橋、上田(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以 上

2016 年（1月～12月）の実績について

1. 2016年のビデオソフトの総売上は2047億2700万円で前年比93.9%となった。上半期は1025億7700万円で前年同期比100.6%と2015年の上半期をわずかに上回る実績となったが、下半期が1021億5000万円で前年同期比87.9%と伸び悩み、年間実績で前年を割り込んだ。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが1163億7000万円で前年比93.7%、ブルーレイが883億5700万円で前年比94.1%と、両方のフォーマットで前年を割り込んだ。DVDビデオとブルーレイの売上金額における構成比は56.8：43.2となり、ほぼ前年と同じ割合だった<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別に見てみると、販売用が1531億6500万円で前年比94.2%、レンタル店用は491億900万円で同90.5%となった。本年、新たに調査対象に加えた特殊ルートの売上金額は10億1600万円となった。販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の売上金額における割合は、74.8対0.5対24.0対0.7となった。<添付資料 表4>

3. 販売用全体（DVDビデオとブルーレイの合計）の売上金額におけるDVDビデオとブルーレイの割合は45.4：54.6となり、2014年以降はブルーレイの割合が過半を占めている。

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると『音楽（邦楽）』が 35.0%を占め、前年に引き続き構成比 1 位となり、前年比 102.5%と好調に推移した。構成比 2 位の『日本のアニメーション（一般向け）』は前年比 85.3%と 1 割以上の減少となった。続く『洋画（TV ドラマを除く）』も前年比 96.3%、『邦画（TV ドラマを除く）』も同 94.5%にとどまったが、『海外の TV ドラマ』は好調で同 123.4%と伸長した。＜添付資料 表 6＞

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション（一般向け）』が 76.6%、『洋画（TV ドラマを除く）』が 68.1%、『邦画（TV ドラマを除く）』が 47.5%、『音楽（邦楽）』も 43.5%と高くなっている。また、売上金額は大きくはないが『海外アニメーション（一般向け）』は 93.5%がブルーレイによる売上となっている。

4. ブルーレイの販売用の売上金額は 836 億 5800 万円で前年比 93.2%となった。

ジャンル別では、構成比 1 位は 38.3%を占める『日本のアニメーション（一般向け）』だが、前年比は 82.4%と割り込んだ。これに対し、構成比 2 位（27.9%）となった『音楽（邦楽）』は前年比 104.2%、また 3 位（14.5%）の『洋画（TV ドラマを除く）』も同 102.4%と伸長したが、『日本のアニメーション（一般向け）』のダウンが全体に大きく響くこととなった。第 4 位（4.2%）の『邦画（TV ドラマを除く）』は前年比 99.7%、第 5 位（3.8%）の『海外のアニメーション（一般向け）』も同 97.0%とやや前年を割り込んだ。＜添付資料 表 6＞

5. DVD ビデオの販売用の売上金額は 695 億 700 万円で前年比 95.4%となった。ジャンル別では、全体の 43.6%を『音楽（邦楽）』が占め、前年比 101.2%となった。第 2 位（構成比 14.1%）は『日本のアニメーション（一般向け）』だったが前年比は 96.2%、第 3 位（同 8.2%）の『洋画（TV ドラマを除く）』も同 85.6%、第 4 位（同 5.6%）の『邦画（TV ドラマを除く）』も同 90.1%と振るわなかったが、同率第 4 位の『海外の TV ドラマ』は同 112.3%の伸長となった。＜添付資料 表 6＞

6. レンタル店用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額における DVD ビデオとブルーレイの割合は 91.9 : 8.1（前年は 92.9 : 7.1）となり、DVD ビデオが主流を占めているが、徐々にブルーレイの比率が増加している。DVD ビデオのレンタル店用の売上金額は 451 億 4400 万円で前年比 89.6%と減少が続いているが、ブルーレイのレンタル店用は 39 億 6500 万円で、前年比 102.7%とわずかながら前年を上回った。

＜添付資料 表 2、表 3＞

7. レンタル店用全体の売上金額をジャンル別に見てみると『洋画（TV ドラマを除く）』が 23.4%を占め構成比第 1 位、構成比 2 位は『日本のアニメーション（一般向け）』（構成比 17.0%）、第 3 位は『邦画（TV ドラマを除く）』（同 16.3%）、第 4 位が『アジアの

TV ドラマ』(12.9%)と続くが、6.5%~13.5%減と、いずれのジャンルも前年を割り込んだ。〈添付資料 表7〉

売上金額におけるブルーレイの割合が最も高いのは『洋画 (TV ドラマを除く)』で、売上金額の22.3%を占めた。

8. DVD ビデオのレンタル店用のジャンル別売上金額では、『洋画 (TV ドラマを除く)』が構成比19.8%を占めたが、前年比88.8%、『日本のアニメーション(一般向け)』が18.3%を占め同92.4%、『邦画 (TV ドラマを除く)』が15.9%を占め同93.2%、『アジアのTV ドラマ』が14.0%を占め同86.5%、『海外のTV ドラマ』が12.5%を占め同86.9%と、主だったジャンルで前年を下回った。

ブルーレイのレンタル店用のジャンル別売上金額では、全体の64.8%を『洋画 (TV ドラマを除く)』が占め、前年比107.7%と伸長した。『邦画 (TV ドラマを除く)』は20.9%を占めたが同93.6%にとどまった。〈添付資料 表7〉

9. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVD ビデオの販売用の平均単価が3,285円で前年比108.4%、ブルーレイの販売用も5,137円で同104.1%となり、2年連続で販売用は全体的に平均価格が上昇した。DVD ビデオ、ブルーレイともに、販売用の主流ジャンルである『日本のアニメーション(一般向け)』『音楽(邦楽)』の平均単価が上昇していることが影響している。

これに対しレンタル店用はDVD ビデオが1,539円で前年比84.4%、ブルーレイが1,661円で同88.2%となり、価格の下落傾向が続いている。〈添付資料 表5〉

以上

追記

〈本統計調査報告についての注意点〉

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- 2016年から当分の間、ブルーレイの売上にはULTRA HD Blu-rayの売上を含む。
- 2016年から雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上を「特殊ルート」として含む。